

9月7日（土）ホームカミングデー 高齢者福祉分野③分科会報告 （佐藤博彦先生）

<参加者が抱えている諸問題と交流内容の報告>

福祉分野実践者（社会福祉士、介護支援専門員）や現在は福祉に携わっていない人等現在の課題や疑問等を話していただき、また感想等を述べていただいた。

（1）介護支援専門員（ケアマネージャー）に求められるものとは何か。

トラブルを抱えがちなケアマネが多いように思える。資格はあっても、現場を知らないようなケアマネ、また経験不足のケアマネも多いような感じがする。ケアマネの支援も必要である。機械的ではなく、「人間」として向かい合い、それを基本とした生活支援が重要であると考えます。また、介護支援専門員自身が、自己の「成果」やまた、「達成感」をどのように今後見出していくのが課題であると考えている。

（2）専門職としてのキャリアアップの必要性、重要性について。

関係する団体や社会福祉士会等で情報を共有し、自身のキャリアアップに繋げる機会を持つことが大切である。学び続けることが大切であると考えている。

（3）行政や地域との連携の在り方について悩んでいる。

社会福祉士として、実践の中で苦勞している。支援を行なう上で例えば、精神疾患や認知症などを隠し、支援の中で問題が表出した時点で「実は、精神疾患の既往症があった」とか、明らかに疾患が認められるのに、本人が認めない場合もある。その場合の支援や連携について悩んでいる。特に、行政や地域との連携方法について悩んでいる。また、独居老人の問題、家族の無関心などの支援困難ケースに関して、利用者主体の在り方とはどういうことなのか、考えている。

（4）スーパーバイザーの存在について。存在の有無は福祉職にとって大きい。

専門職にとって、スーパーバイザーの存在の有無は、実践を行なっていく上で非常に大きいと感じる。自身のおこなっていることが、本当にこれでいいのか迷った時の助言は必須であると感じている。

（5）福祉現場で働くにあたり、資格取得がゴールであると考えている人が多い。

資格取得は、ゴールではなくてそこが本当はスタートラインであると感じている。

（6）就職の際、何ができるか、何がしたいかというところや人間性を見て欲しい。

（7）福祉の現場で働くうちに、障害者や高齢者などの利用者に対し、「人間」として接す

ることを忘れがちになってしまう。忙しさのあまり、業務をこなすことが第1の目的になってしまっている。

(8) 脊髄腫瘍の患者の家族として、広く皆様にITB（髄腔内バクロフェン投与）療法について知ってもらいたい。<http://www.itb-dsc.info/>制度の現状等、多くの人に知ってもらいたい。

(9) 不動産業からグループホーム経営を組みたいと考えて本学へ入学したが、いざ実行に移すにあたり、福祉との連携が図れず、うまくいかなかった。福祉の良い面と悪い面を見た。

その他にも、さまざまなご意見や問題提起等いただいております。それぞれの出席者が抱えている問題を参加者全員で共有することができた、有意義な分科会であったと思います。